

我が国の骨髓腫による死亡数（死亡率）の動態

戸川 敦¹、竹迫 直樹²

¹ 国立病院機構甲府病院、² 自治医科大学学生化学講座

我が国の骨髓腫による死亡数と死亡率（対人口 10 万）は年々増加し 2003 年には 3570 人、2.83 人となっている。死亡率は男性が女性を常に上まわっているが、死亡数は女性の平均寿命の延びを反映してか男性を抜く勢いを見せている。

年齢別死亡率の経時的変化をみると、65 才未満では 1970 年以来死亡率に変化はない。男性でここ 20 年間にわたり 75 才以上で年々死亡率の上昇がみられ、特に 80 才以上で顕著である。女性でこの 10 年をみると 80 才以上で死亡率の上昇がみられる。90 才以上で死亡率が年々上下して一定しないのは、母集団が小さい所為なのかもしれない。

75 年から 79 年、85 年から 89 年、95 年から 99 年、02 年から 03 年の 4 期間における年齢別平均年次死亡率の推移をみると、総ての年代にわたり死亡率は男性が女性を上まわり、しかも高年齢になるほどその差が顕著となる。男性で 75 年代と 85 年代を比較した場合、死亡率の上昇が 65 才以上でみられるのに対し、85 年代と 95 年代とでは 75 才以上に、95 年代と 00 年代で 80 才以上にみられ、死亡率の上昇が年々高年齢層に移行していく様子がみられる。

70 年と 03 年の造血器腫瘍死亡者の骨髓腫の比率をみると 2 倍以上となっている。

以上すべて厚労省人口動態統計によった。